

第 14 回 (2010 年 1 月 20 日). 「耕作権の強化と農業生産性」 課題

Banerjee, Abhijit V., Paul J. Gertler, Maitreesh Ghatak (2002),

[“Empowerment and Efficiency: Tenancy Reform in West Bengal”](#),

Journal of Political Economy 110(2):239-280.

有本 寛

2009 年 12 月 16 日

1. 報告者への課題

- (必須) Abstract, Introduction, Conclusion を読み, 背景, 課題と方法, 結果を解説すること.
- (必須) 川越 (1995), 速水・神門 (2002), 暉峻 (2003)などを参考に, 日本の農地改革について (1) どのような改革だったのか (何が変わったのか, Operation Barga との違いは何か?), (2) その結果, 農業生産性にどのような影響があった (なかった) のか, を調べて報告すること.
- (発展) IV(A. Comparison to Bangladesh) を読み, Fig 4, Table 2, Table 3 を解説すること.

2. 課題と方法

- 農地改革は, 多くの国が経験する農業部門における一大改革である. 農地改革にもいろいろあるが, よくみられるのは地主小作関係における, 小作農 (借地人) の権利を強化する改革である. このような小作農の権利の強化は, 一般的に農業生産性を高めるとされている (なぜ高めると考えられるのだろうか?).
- 本稿が対象としているインドの農地改革 (Operation Barga) の概要を説明してください (II). この改革によって生じた制度上の変化を 2 つ確認すること.
- Operation Barga が農業生産性に与える影響が, 理論モデルに基づき 3 つ指摘されている (III):
 - 第 1 は, 交渉力効果 (bargaining effect). 小作農の取り分 (収穫物の配分比率) が増えることによって, 小作農のインセンティブが高まり, 投入する努力水準が上がることから生産性も高まる効果である (Result 1, p.247).
 - 耕作権効果 (security of tenancy effect). 地主は契約を解除できなくなる効果. この効果は生産性に対して反対方向の影響を生み出す:
 - ✧ 第 2 の影響: 契約解除を脅しとして小作農のインセンティブを高めることができなくなり, 小作農の努力水準が下がってしまう効果 (Result 3, p.252).
 - ✧ 第 3 の影響: 契約が解除されにくいので, 小作農が土地への投資を増やし, 生産性が上がる効果 (Result 4, p.255).
- 本稿では, 農地改革が農業生産性の向上に繋がったのかどうかの検証を, 2 つのアプローチに基づいて行っている. ひとつはバングラデシュとの比較 (IV.A) であり, もう一つは改革の進展度が district ごとに異なるというばらつきを使った検証である (IV.B). 報告は前者だけでよい.
- バングラデシュとの比較がなぜ有効か (対照群として適切か) 説明してください.
- P.260 の推計式を説明してください.
- 分析に使っているデータ (観察単位, 年次, サンプル数など) について説明してください (ヒント: p.261, 3 ペラ).

3. 結果

- Fig 4 を説明してください。
- Table 2 の結果を説明してください。列 (1) は、1969 年から 78 年にかけての、米反収（対数値）の年ごとの変化（difference）を被説明変数にしたものである。よって、西ベンガルダミーの係数は、バングラデシュと比べたときの、西ベンガルにおける、年ごとの米反収の平均的な変化の差を表している。この推計を行う意味は何だろうか？（ヒント：Operation Barga はいつから始まった？）
- Table 2 の列 (2) (3) は、1969～93 年にかけての米反収（対数値）のレベル（level）を被説明変数としたものである。列 (1) は district fixed-effect が入っていないが、列 (2) は入っていることに注意。よって、この推計は、district ごとにみた、Operation Barga 前後の米反収の変化、を西ベンガルとバングラデシュと比べている（差の差）。Table 2 の結果から何が言えるか？
- Table 3 は、時間を通じて変化する変数を説明変数に加えた推計結果である。

4. ディスカッション課題

- なぜ農地改革によって、農業生産性が上がると考えられるのだろうか？
- 農地改革による小作農の権利の強化は、生産性を高める可能性があるという利点の一方で弊害も考えられる。弊害としてどのようなものが考えられるだろうか？

5. 用語

- Sharecropper：分益小作人，地主から農地を借り，収穫物の一定比率を小作料として払っている（＝分益小作，刈分小作）小作人。
- Tenure：保有権，耕作権
- Property right：所有権

6. 文献

- 速水佑次郎・神門善久（2002）『農業経済論 新版』岩波書店。
- 川越俊彦（1995）「戦後日本の農地改革」経済研究，46(3)。
- 暉峻衆三（2003）『日本の農業 150 年』有斐閣。